

ゴムと異素材の接着を多彩な技術でサポートします

異素材接着技術のご紹介



- 溶剤による脱脂が不要
- 塗リムラなどの心配は無用
- 難接着材料も強固に結合

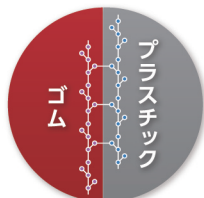
化学結合

ゴム×各種プラスチック

アンカー効果

ゴム×各種金属

Radicalock®



ゴムと樹脂の界面に置いて、相互の分子鎖の間に架橋結合(化学結合)が生じることで、強固に結合する技術。

接着強度	密閉性	界面形状	対応素材	量産性
◎	◎	◎	○	◎

ポイント

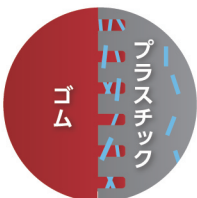
- ・狭小面でも強固に接着
- ・シリコンやEPDMなどの難接着材料も結合可能
- ・製造環境に優しい

欠点

- ・樹脂材料が限定される
- ・バリまで接着してしまう
- ・ゴム成形時間が長い

※Radicalock®は、株式会社中野製作所が保有している登録商標です。

AKI-Lock®



ガラス繊維を含有した樹脂成形品にレーザーを照射して溝を掘り、露出したガラス繊維をアンカーとしてゴムを結合する技術。

接着強度	密閉性	界面形状	対応素材	量産性
○	◎	○	◎	◎

ポイント

- ・様々な樹脂やゴムに対応
- ・樹脂表面のレーザー処理が容易
- ・処理した部分のみ結合

欠点

- ・処理工程が必要
- ・ガラス繊維入り樹脂に限定
- ・処理できる形状が限られる

※AKI-Lock®は、ポリプラスチックス株式会社が日本その他の国で保有している登録商標です。

DLAMP™



金属表面にレーザーを照射することで形成する多孔質様の細孔にゴムが流れ込むことでアンカー効果を得る技術。

接着強度	密閉性	界面形状	対応素材	量産性
○	◎	○	◎	○

ポイント

- ・多様な金属に対応可能
- ・ワークタイムフリー(酸化被膜による接着阻害なし)
- ・処理した部分のみ結合

欠点

- ・処理工程が必要
- ・処理できる形状が限られる

※DLAMP™は、ダイセルミライズ株式会社の登録商標です。